

「感謝」

匿名希望

貝塚に嫁いで三十七年、夫婦共に還暦は数年前に終えた。二人の息子もそれぞれ家庭を築き仕事と子育てに頑張っている。そんな息子達の生活や価値観の違いに感じつつ理解する努力をしている。長男曰く、「昔は昔、今は今！」と一言で簡単に片付けられてしまう始末だ。「冷たい息子やなあ。」と書いていても、忘れられない事がいくつかある。その一つ、結婚式当日、式が始まる前に、サプライズで感謝の気持ちを伝えるシーンがあった。長男の時は、直前にスタッフに簡単な打ち合わせと言われ案内され、まだ、誰も居ない静寂した式場に正装した凛々しい長男が改まって面と向い緊張した面持ちで、感謝の言葉を伝えたいと忙しい中で、書いたであろう手紙を読み始めた。中学時代は本当に、大変な時期があり苦しい思いをした。授業のエスケープから始まり、茶髪やピアス、学校や警察からの呼び出し、家出と色んなことがあり反抗期とは言え、この先、息子はようになっていくのか途方に暮れた日々を過ごしていた。ある日5歳下の次男が「お兄ちゃんは、自分のことはちゃんと考えているから、お母さんはもう心配せんと信じて見といたらええねん。」と言った事を思い出した。今、目の前で感謝の言葉を涙ながら読む姿に、夫もまた肩を上下に震わせて嗚咽していた。苦勞し息子との葛藤があったが、その一瞬で全てが報われた。改めて思う、色んなことを家族で乗り越えた証に今があるのだと。次男のあの言葉に感謝。